

今の「働き方」でいいんですか



八巻甲一

株式会社 日本・精神技術研究所
心理臨床・教育事業部

キャリア開発カウンセラー(JICD認定)

私はこの連載で「(自分にとっての) 内的キャリアの自覚とそれが働くことにどういう意味や意義があるのかを見出すことは、人生を豊かにすることに つながる」と書いてきた。別の言葉で 言えば「働いて生きていくうえで自分 にとってとても大切なもの、価値のあ るもの」を大事にしようというシンブ ルなことに過ぎない。コラムの担当を 終えるに当たっては、何をするかでは なくどう働くかという「働き方」をあ らためて考えてみたい。

今春、ウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカ氏が来日し、彼の言動や考え 方がメディアでも取り上げられたので 興味を持たれた方もいたと思う。ご存 知のように彼を一躍有名にしたのは 2012年に国連主催で行われた「持 続可能な開発会議(通称、リオ会議)」 でのスピーチである。彼はそのスピー チの中で「貧乏な人とは、少ししか物 を持っていない人ではなく、無限の欲 があり、いくらあっても満足しない人 のことだ」と訴え、今の消費主義社会 を批判し世界に大きな反響を呼んだ。 彼のスピーチの波紋がそれほどまでに 大きかったのは、私たちが当たり前の こととして考えている「豊かさ」への アンチテーゼであったからであろう。

私たちは暮らしを豊かにするため にと考え、少しでも多くの収入を得よ うとして頑張る。また、そのことに疑 義を抱くことも少ない。しかし、この 多くの人にとって当たり前のこのこと を、深く考えることもなく私たちは 突っ走ってきた。なぜなら近代社会が 目指してきたものがそれだったからで ある。その見返りが福島第一原発の事 故だと私は思うが、決して言い過ぎで はないだろう。私たちは、今こそ真剣

に働き方(それは取りも直さず「生き 方」でもあるが)を考え直す時代に直 面しているのではないだろうか。

Dさんは大手の流通関係の会社に 主任として勤める30代半ばの2児の母 親である。Dさんの相談内容は「仕事 と家庭を両立したい。だけど、子育て をしながら管理職として活躍するモデ ルが(Dさんの周囲には)いないので、 この先どう考えていけばいいかわから ないで不安です」という悩みであつ た。1985年の男女雇用機会均等法 の制定は女性の社会進出のきっかけに なり、1997年の改正でさらにそれ は弾みとなった。雇用機会に性差別を なくすことは喜ばしいことだし、こう した取り組みが遅かった日本は、制度 的にはやっとなら肩を並べたと言え る。こうして、大企業を中心に女性が 男性と同等に働く姿は珍しくなくな り、その中で管理職に登用される女性 も徐々にだが確実に増えてきている。 Dさんもそうした中の一人である。

しかし、ここに来てこうした家庭を 持つ働く女性の相談に一つの傾向が あることに気づかされる。それが今回 Dさんの悩みである仕事と家庭の両立 の困難さである。今の立場で働き続け たいから残業や出張も立场上それを拒 否できないし、成果も上げられなくな るという、周囲を見ても成果を出す人 はそうやって頑張って昇進しているとい う。日本の多くの企業では、職位が 上がることで労働時間の増加は正比例 する。本音はともかく部下より先に退 社できないというのが実情だ。下の子 がまだ3歳のDさんは、これ以上会社 での時間を増やしたくないのも正直な 想いである。まさにワークライフバラ

ンスがDさんのテーマと言える。私は 思い切って「昇進を諦めることは無理 なんですか」と尋ねてみた。「昇進は 諦めたくない。だって、今まで何のた めに頑張ってきたのかと思うんです」という。男性と競争するように仕事を 頑張ってきたDさんのこれまでの努力 を思えば、母親としての時間を大切に したい一方、そう簡単に昇進を断念で きることではないとその気持ちも理解 できる。

厚生労働省は「長時間労働の削減」 に長く取り組んできているが、一向に 改善の兆しが見えない。安倍政権は先 ごろ「36協定」の見直しを検討すると 発表したが、近い将来長時間労働が削 減されるとはとも思えない。誰もが 長時間労働がなくなればいいと思いな がらそうならない(そうできない)背 景があるからだ。

Dさんに話を戻そう。Dさんにとつ て男性と同等に働くということとはど ういう価値があるのだろうか。それは人 生を豊かにすることとどう関連してい るのだろうか。長時間労働がなくなら ない中で、もし、仕事と家事の両立を目 指すのではなく、今の働き方自体を問 題にできるなら、また、そうした視点 で生き方を考えてみるができるなら、 出口は違って見えてくるように思 う。女性の社会進出が進んでいる欧米 では、昇進を拒否して自分の幸せを求 めるエリート女性も現れてきているとい う。これは一人Dさんの問題ではなく、また、女性だけの問題でもなく、働く人にとつての共通した豊かさとは 何かを考えるテーマではないだろう か。ムヒカ元大統領の提言が意味する ことは他人事ではないのである。